

テロ対処に日米文化の差あり！

1 初めに

さる講演を聞いて、コロラド映画館銃乱射事件を受けての教育ビデオ政策の件を知った。その内容を見て、危機に対する現代日本と欧米との根源的・本質的な差異があるやに思えた。両者を比較し、処方箋を考えたい。

2 コロラド映画館銃乱射事件を受けてのテロ対処の変化

(1) 銃乱射事件の概要

アメリカ合衆国の西部・コロラド州の都市、オーロラ市にある映画館で、2012年7月20日、映画バットマン・シリーズの最新作の上映中に銃乱射事件が惹起した。

12人が死亡、負傷者は58人を数えた。容疑者として、映画バットマンの悪役である「ジョーカー」を名乗るジェームズ・イーガン・ホームズが逮捕された。

この事件で、愛する女性と一緒に映画鑑賞中であった男性（25歳）が、愛する人を命懸けで守ったとして、全世界に感動を与え、本物のヒーローとして称えられている。

(2) FBIも推奨する「教育ビデオ」の製作・活用

この残虐な事件を受けて、ヒューストン市は、米国本土安全保障省からの資金協力を受けて、同じような銃乱射事件に遭遇した場合、どう対処すべきかを解説した動画「RUN、HIDE、FIGHT、Surviving an Active Shooter Event-English」を製作した。

この動画は、FBIが国民に視聴を推奨、全米の多数の自治体・企業の他学校教師の研修等に広く活用されている。<https://www.youtube.com/watch?v=5VcSwejU2D0>

(3) 従来対応に FIGHT を追加

このビデオの要点は、以下の3点であり、特に従来の考え方に追加して「Fight」を加えたことである。

①逃げる (Run)

冷静に周辺状況を観察し、安全な所へ逃げることをまず第一に考える。

逃げ道があるなら避難、他人の言動に関係なく逃げる、所持品は置いて、他の人の避難援助、状況を知らない人に知らせる。安全地で☺する。

②隠れる (Hide)

脱出できないと思ったときは身を隠す。犯人の接近阻止用障害物、ドアの鍵かけ或いは封鎖、犯人の視界外等陰に隠れる、音たてず(携帯の音切る)、自分の動き制限されぬよう

③戦う (Fight)

已む無く戦うなら、銃を何らかの方法で奪うか無力化等、武器として使用できるものは何でも利用、犯人の無力化、物理的攻撃、武器作成、自分の行動に集中

これは飽くまでも最後の手段、自分の命が危険に晒された場合

特にこの③項が日本と（欧）米国との相違点であろう。

3 外務省作成による「テロの特徴と対処方法」(2016/2/4)の内容

外務省が、「テロの特徴と対処方法」をHPに掲載している。その対象は、爆弾テロと銃乱射事件であり、事前対策と対処法に分けて説明している。

(<http://www.ro.emb-japan.go.jp/stuff/terorisizumnotokuchototaisyohouhou.pdf>)

(1) 事前対策

君子危うきに近寄らずや情報収集等の基本事項、宿泊・交通手段・食事場所・ルート等の選定・確認・週間等の留意事項、服装、近寄らない場所等の考え方等

(2) 対処方法の概要

①如何なる場合でも

直ちに伏せる、頑丈な物陰に隠れる、速やかに現場から離れる、隠れる等

②銃撃事件の場合

低い姿勢でジグザクに逃げる、壁際から離れて逃げる、周りの動きをよく見る、不用意に動かない、防御物を探す等

③爆発テロ事件や閉じ込められた場合の対処方法（略）

(3) Fight は？

対処方法の、Run と Hide は、その趣旨において、日米共通であり、決定的に違うのは Fight だ。日本の対処法には、この Fight が欠けている。勿論、義侠心を發揮して銃撃犯に立ち向かうのは無謀だし、決してすべきではない。

然しながら、自分や愛する者の命を守るために、チャンスを見つけて犯人に対峙することまでも排除すべきか？ 逃げて隠れて只管に嵐の過ぎるのを待つのが正しいのだろうか？断じて「否」である。

最も、外務省の HP は海外渡航者対象であり、斯様な姿勢で対応すべきであると思わないでもないが、日本国内で、銃乱射事件のようなテロに遭遇した場合でも、我が身可愛さだけで対応すべきなのか、違和感を覚えるのは小生のみか？

4 テロに屈した日本の体質

1977(昭和 55)年 9 月 28 日に日本赤軍が、バングラデシュのダッカで起こしたハイジャック事件で、時の日本政府(福田総理)は、「一人の生命は地球より重い」と述べて、身代金 600 万ドルの支払い及び超法規的措置として獄中メンバー 9 名の引渡を決断した。日本はテロに屈したと国際的な非難を浴びた。この戦後日本の体質がテロ対策にも悪影響を及ぼしているようだ。生き延びることが絶対善なのか？

銃撃事件に遭遇した際に、ただ只管にじっと身を潜めることがベストであると国民は信じているのだろうか？平和を願えば平和になる、話せば解るという戦後の呆けた原理平和主義が蔓延しているようだ。

義、勇、仁一惻隱の心、礼、信と誠、名誉、忠義、克己等の日本武士道精神は何処に行ってしまったのだろうか？傍観者ではなく、当事者意識をもって事態に対すべきである。「戦う」こともその一環であり、手助けし、救助することもそうだ。そのような意識が希薄になっていないか。

5 武士道精神の再興を！（終わりに代えて）

戦後の日本が斯くもだらしく柔弱になったのは、日本人の精神的支柱としての武士道が失われたからではないだろうか？日本人が武士道精神を取り戻したならば、今跋扈している虐待やいじめ問題もセクハラも〇〇ハラも解決しよう。テロへの対応も毅然たるものになろう。勿論、無謀さを推奨している訳ではないので念の為。

*蛇足を一つ：テロ事件に際し、決してスマホで撮影などしないこと。自らを危地に陥れること必定。